2025年度　事業報告　　施設名　　幼保連携型認定こども園　同朋にこにこ園

事業年度	定員(人)			児童数(延人数)			充足率(%)		延長保育利用人数（延人数）								一時保育	園庭開放他	
									３０分延長		1/1.5時間延長		２時間延長		日割り		（延人数）	（延人数）	
2024年度　事業報告	203 人	1号	15 人	2,301 人	1号	167 人	1号	93 %	443	名	169	名		名	2,860	名	106 人	521	名
		2,3号	188 人		2,3号	2,134 人	2,3号	95 %											
2025年度　事業報告	203 人	1号	15 人	2,277 人	1号	192 人	1号	106 %	644	名	286	名		名	2,135	名	77 人	442	名
		2,3号	188 人		2,3号	2,085 人	2,3号	92 %											
ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）				事故報告（受診を要した件数）					要望・意見・苦情　報告										
A:　12件　B:　99件　C:　129件				15件					要望：　0件　意見：　0件　苦情：　2件										

方針	基本法	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善(A)
人権の尊重	本人	○ 基本理念 ・「人は大切、子は宝」 ・「人間尊重と子ども第一主義」 ・職員、子どもの人権擁護と虐待防止に努める	・権利擁護の研修を全職員年1回受講する ・人権擁護チェックリストを実施(年2回) ・虐待チェックリストを実施(年3回) ・一人一人を大切にした保育を行う ・一人一人の人権を尊重し、性別や国籍障がいの有無によって区別することのない保育をおこなう ・虐待防止と早期発見に努める	・「権利擁護」についての研修を行う（10月14日） ・人権擁護チェックリストを実施(年2回) ・虐待サイン発見のチェックリストを用いて全園児チェックを行う ・虐待マニュアルの見直し（令和7年10月） ・職員会議の前に「職員の心得」を読み合わせる	・法人顧問の飯島先生による権利擁護の研修を行ったため、より理解を深めることが出来た ・虐待発見のチェックリストを用いていることで、日ごろからの気付きにつながられた ・毎月の職員会議で職員の心得を読み合わせることで、日々の保育の振り返りを行えたが職員間での気付きを話し合えるまでには至っていない	・権利擁護の研修を受講し、振り返りの研修を実施する（6月） ・行事の見直しや公休数が増えることでゆとりを持った保育を行うことができるようにする ・虐待チェックの時だけでなく日々の保育の中で気付けるよう丁寧に関りを持つ ・月に一度「職員の心得」の読み合わせを行い、日頃の保育の振り返りを継続し、人権擁護研修の際に話し合う機会を作る
サービスの質の向上	本人	○ 保護者支援 ○ 保育の質の向上	・職員は保護者に寄り添い連携し些細な悩みにも対応し安心して子育てができるように支援する ・アンケート（年2回）、ご意見箱設置により保護者のご意見を園運営に反映させると共に保育の質の向上に努める	・個別懇談の際に悩みや相談を把握し積極的に話しかける ・保護者アンケートを行う クラス担任と連携し、気になる子どもや親の ・情報を共有する 心理カウンセラーに年6回来園してもらい、子どもの様子を観たり、保護者との相談時間を設ける	・個別懇談で家庭の思いや悩みを園も共有できた ・心理カウンセラーから気になる子どもに対し、職員へのフィードバックを受けより丁寧な関りを持つことが出来た ・保護者アンケートの回収率は160家庭中124家庭の回答で77%であり、全体的には満足しているという回答であるが、自由記述欄に少数意見、要望があった	・昨年度に引き続き個別懇談の日程を決めず「懇談希望カード」に記入いただきいつでも受け入れることでより子育て相談や悩みなどを話しやすい機会を設けた ・心理相談日を年6回設け、保護者にも気軽に相談できる場や、職員にも多くの専門的な助言を頂くことで日々の保育の充実を図れるようにする ・アンケートの回収率が77%で昨年度より4%上がったが、更に回収率を上げられるようにしていきたい
地域との共生	本人	○ 子育て支援 ○ 学校、関係機関との連携 ○ 地域との関わり ○ 地域の子どもの人数等の動向を把握	・地域にチラシを配布したり、インスタグラムのDMを利用し、園庭開放や「にこにこ喫茶」への参加しやすい工夫をする 一時保育の受け入れ ・小学校、中学校、老人施設との連携と交流 区役所、警察署、消防署との連携 ・適正人数の受け入れをする ・	・園庭開放のチラシを近隣へ配布する ・地域子育て事業を積極的に行う ・トライやる・ワークキャンプ受け入れ（8名） ・実習生の受け入れ（５名） ・5歳児が井吹西青少年育成協議会と井吹台西公園清掃 ・中学生とのふれあい体験学習 ・井吹西小学校との交流会（年１回実施） ・令和７年度６月、神戸市に本園、分園の年齢別定員変更を申請する	・電話申し込みよりDMから園庭開放や子育て応援事業への参加申し込みが増えたが参加人数は昨年より減っている ・保育実習生のみではなく小児看護実習生の受け入れを実施 ・年６回年長クラスと青少年育成協議会と一緒に地域清掃を実施 ・小学校との交流会を行う予定だったが感染症が流行していた為中止となった ・分園の１歳児の定員を増やした事で今後、一時保育等、利用希望のニーズにこたえる	・子育て応援事業の参加人数が減っている要因として参加し辛い時間帯（お昼寝の時間）といった意見もあったので実施時間の見直しを行う ・少しずつ実習生が減ってきているので保育士確保の点からも受け入れを広げて実習生を受け入れるようにする ・小学校との交流が増えてきているが、小学校からの発信が多いので自園からも打診できるように考えていけるようにする ・子育て応援事業実施の日や児童館に出向き、積極的に声をかけ、入園や一時保育につなげる
人材育成	本人	○ 職員の質の向上 ○ 人材確保	・権利擁護、危機管理意識を高める ・保育環境、保育内容の充実をはかる ・スキルアップのためのキャリアアップ研修の受講 ・養成校との連携、実習生への働きかけＳＮＳでの発信を強化し人材確保に努める	・権利擁護の園内研修を行う ・ヒヤリハットの前年度当月に起こったものを伝え危機管理につなげる ・園外研修の報告会を年４回計画する ・キャリアアップ、公私合同研修に参加する ・就職フェアに参加したりSNSで園の様子を載せて学生の興味を持ってもらえるようにする ・学生アルバイトを受け入れる	・ヒヤリハットの前年度の同じ月に多かった事例を伝えることで危機管理を意識することができた ・園外研修の報告会を行うことで全職員のスキルアップにつながった ・令和７年度は実習生からアルバイト、就職へと繋げることができた	・危機管理でヒヤリハット、事故の見直しと共に危険予知トレーニングを行えるようにしていきたい 今後も園外研修報告会を続けて職員のスキルアップにつなげていきたい ・就職フェアやSNS等を使って福利厚生の充実や働きやすさをアピールし職員確保につなげる ・学生アルバイトを引き続き受け入れ、自園に興味を持ってもらえるようにする